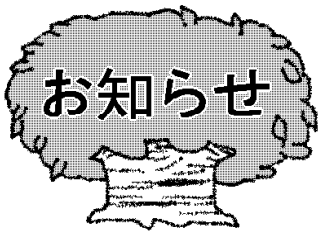
旭ヶ丘キリストの教会　ニュース



《今週の歩み》

２/23(日)聖日礼拝
/24(月)振替休日
/25(火)14:FEBC 来訪取材
/26(水)
/27(木)10:00祈り会
/28(金)
/29(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》

①家族の救いのために
②礼拝に来れなかった人々のために
③主が教会学校の子供たちもお送り下さいますように

良書ハイライト

「救い主」

渡辺和子著「愛をこめて生きる」(PHP文庫，2004)より

救い主という時、それは自分が困っている時、助けを求める時に、どこからともなく現われて救ってくれる、スーパーマンのような存在と考える人もいるかも知れない。そして事実、そういう救い主を二千年前のユダヤ人たちはイエスに求めたのだった。

だから、全く無力としか言えない幼な子の姿で、所もあろうに馬小屋に生まれ、名もない大工の倅(せがれ)として育ったイエス、奇跡はたしかに行ったけれども自分たちが願うような奇跡を行おうとしなかったイエスを、彼等ユダヤ人は十字架につけてしまった。

私にはむしろ、このイエス・キリストの「無力さ」が救い主の救い主たる所以ではないかと思えるのだ。悩みもだえ、苦しむ人間を上から見下ろして、「哀れなやつ」と救ってくれる存在ではなく、ともに苦しみを分かち合ってくれる人、しかしながら、実はその苦しみこそ、やがて人が〝復活〟するために、なくてはならないプロセスなのだということを説いたばかりではなく、自分の生きざまを通して証してくれたが故の救い主なのである。

来る日も来る日も、小さいことに傷つき、淋しい思いを抱く私たちに、「あなたは独りでない」と励まし、苦しみにも意味があることを教えるべく、キリストは私たちと同じように幼な子として生まれ、平凡な三十年の生涯の後、十字架につけられ、死んで復活したのだった。

病まなければ捧げ得ない祈りがある
病まなければ信じ得ない奇跡がある
病まなければ聞き得ないみことばがある
病まなければ近づき得ない聖所がある
病まなければ仰ぎ得ない聖顔がある
おお、病まなければ私は人間でさえもあり得ない(河野進)

病む人をして、こういう詩を口に出させてくれるキリストこそは、私の救い主である。